



6月9日、アツマランカで初めての子ども食堂

「にこにこ食堂ざしきわらしの家」(代表・中村久美子)は、6月9日の日曜日、二戸市金田一のコミュニティセンター「アツマランカ」で子ども食堂を開きました。小学生以下の子どもたち34人を含めて66人が集いました。保護者のほか、高校生ボランティア3人、市社協と市福祉課からの助っ人3人、私たちのメンバー10人などです。お昼のメニューは、ひき肉と野菜のカレーにカボチャとブロッコリー添え、切り干し大根のサラダ、ヨーグルトゼリー、たまご焼きです。一昨年11月以来6回目となる公民館イベントでしたが、アツマランカでは初めて。子どもたちが集まってくれるだろうか若干不安でしたが、事前に挨拶に行った金田一小学校でチラシを回してくださったようです。ありがとうございました。



この日は、上柿智佳子さん(管理栄養士)と中村孝子さん(二戸市食生活改善推進員)を中心に8人のメンバーが朝9時から調理に取り組みました。前日にも5人で下ごしらえをしています。たまご焼きは、堀野の鮎処たけ田さんからの差し入れです。

上柿さんの見事な采配で、正午には予定どおり「いただきます」が出来ました。中央のテーブルに並べたサラダとデザートを各自が採ってから、カレーは「ご飯、少なめで」「ぼくは山盛りで」などとメンバーと話しながらからよそってもらい、みんなで仲良く食べました。「野菜嫌いの息子が、もりもり野菜カレーを食べていました」とアンケートに書いてくれたお母さんもいました。「カレーのレシピを教えて」「調理ボランティアのおばさまたちと話がしたかった」というお母さんたちもいらっしゃいました。

「いただきます」の挨拶は、中村久美子さん。「食物アレルギー対応はしていない」との注意喚起も。

受付は九戸の大谷悦子さんが、調理班を途中から抜けて、一人で対応してくれました。事前申し込み制ではないので、元気いっぱいの子びっ子たちがどっと来ると、てんてこ舞いに、お疲れさまでした。

福岡高校のボランティアは3人(女子2、男子1)。遊び道具を用意してくれた社協のお姉さんたちと協力して、体育館を走り回る子どもたちを見守りながら、楽しく元気に遊び相手をしてくれました。

お土産は、子どもの居場所ネットワークいわてを通じて「東日本大震災雇用・教育・健康支援機構」から送られてきたカプセルトイなどでした。

5月28日の子どもの居場所ネットワークいわての総会では、茨城県で子ども食堂の弁当の食中毒騒ぎ(原因はウェルシュ菌)があったとの報告もありました。運営者として、十分な注意が必要だと肝に銘じています。

私たちの子ども食堂活動は、二戸市社会福祉協議会、岩手県共同募金会、子どもの居場所ネットワークいわての支援を得て運営しています。